

繪本  
豐臣  
勲功  
記

初編

十

遠13  
2209  
10





門入遠 13  
2209  
卷 10

繪本豊臣勲功記初編卷之拾

目録

柴田勝家まきとら猛勇まうゆう惱なげ今川いまがは勢せう

附 憤殺おんころし庵原あはら

池田勝三いけだかつさん角振かくぶり勇ゆう砍き富とみ永なが

附 前田再まへだ再また戦せん

豊臣初編卷之拾

目録





今川義元戦死干桶狭間

附 駿兵敗小

信長実檢敵首賞嘆前田

附 故籍叔免

繪本豊臣勲功記初編卷之十

櫻澤堂山 編輯



柴田勝家猛勇恠今川勢属憤殺庵原

張翼徳が蜀を補する小世を其勇を評するの聲一々まこと  
知を判するの人稀あり記名將するの勇智兼て備らんとんば  
如何ぞ百戦百勝すべき然らば柴田權六郎勝家の叙て大將の  
軍配を兼听いふ小も這とふと堪へ敵の大軍と發るうと最目  
覺るべき挿しそ五万と听え今川勢と大軍丹下へ欺害提  
軍せんものと佐久間信盛も秘計の條と告知せ持口者重小  
守固免たり今川勢の中寄の要涯と攻取らんとこの余勢  
と二隊小ひき部西と東へ推考る強る小西の嘗と梶川五左衛門



佐久間左系、二百余騎してあまきと守り。東の砦は水野常刀  
 山口海老之丞同二百余人にて固めたり。東一向ひ一駿將も  
 富永伯耆守。北比古小之郎。勝騎する勢威の令川織圍も  
 破らんと。火水小ありて攻起る。此砦の内少水野山は心たうまの  
 種一といども。一万餘の敵軍小。據立らる戦死する軍員多く。  
 残る者少し。都て残を負ざるのりもなき。我くは運  
 こまきで。他又小蒐り死んよりなり。山口水野常刀を決し刺互  
 てぞ死し。りり家。願ひ這際小推蒐まると。噂立る。現相は十丈の  
 堀の決る如く。山ども援くと人馬一奇息つたあまき正黒小隊  
 位と將とて。善祥寺の砦へ推進する。這少の織田の公士大將  
 真木與十郎。伴十友等。二百余騎して擁護する。并り善祥寺と

中島の東西二場の砦寨と。地方三面小對する。具のこま  
 せきなる像。然れども中島の東の砦寨の臨る。今  
 定めこの城へ進軍らんをと思ふ。小間も。一万九千の今川  
 惣。善祥寺の城の四方を。稲麻竹葦と。捕圍む。遠おかりて  
 西中島と同一く。一万九千余騎。做事も舟で手擧おせんと。攻  
 せ免はす據立る。二所の砦の大將のいづれも。別氣の英雄を。ハ  
 臆せし。防戦ひし。左右あかく。入ることあり。是れは免お  
 川。砲失ふ的て。毆死する軍。壘として丘を。号を者さうり  
 進敵の大將之浦左馬助義次。馳りて。不知なるやう。自軍の  
 よく。吹まよ。織田勢のやど。防おぼと。多寡の初ま。這此小  
 擇し。勢ハ僅小四五百。そまきと自軍の一万九千。遠地小向

豊臣御前略巻之十





今川の大軍  
織田方諸所の  
扶塞と  
文階  
と圖





既任むハ老猫能氣小怖るがや。言功のあり兵們ク恥しんを院  
隊位と魁小。深際より槍打薙よ。さよとまハ城中のありき記々  
厥時と道さるのり投まやと声せり。然るに無えれバ。水介てぬと  
魁隊の軍兵。こふ余挺の鳥銃と。三銃こええ打放。こま百  
雷電の鳴動中。火雨熾敷の横相小。天地と裂るや。あや  
城中あまふ氣打魂落。惘然とて。途方と知らず。防戦の術尽  
く。石と進敵一發小喚起。城守柵とあやう。戦術の如く。乱投る。  
城兵今稱下。とあひひく小落失。くハ城將真本共十部。木釘  
くハ防戦あり。と。詰り。乱戦小死と。遂るハ。從來御さじ。勞苦と  
く。せ小あり。徒死せしと。嘆たると。鬼くも命と棄る。時。大將の河  
馬前ふ。濠く。砍死せん。去来や。伴氏退去。あま。と。真本共十部。

初む。あぞ十左衛門も現小。然こそと。五十騎を。る。の。多。と。と。ま。ひ。  
善祥寺の杖寨と。落り。る。と。詰り。く。ま。ふ。今。門。勢。今。朝。より。烈。く。  
攻。も。る。小。う。警。備。九。根。と。始。と。て。東。中。宿。善。祥。寺。四。下。の。岩。  
と。攻。陥。せ。り。小。ま。ま。と。正。午。小。の。過。さ。り。先。や。こ。ま。より。西。小。搦。つ。  
上。中。宿。小。推。進。んと。三。万。餘。騎。の。駿。河。武。者。恰。も。鯨。魚。の。鱈。  
と。退。つ。て。波。濤。と。躍。る。の。如。し。異。口。同。声。小。叫。起。而。濤。と。候。  
せ。く。及。著。り。る。岩。の。大。將。梶。川。佐。久。間。決。り。防。戦。し。果。せ。歎。し。奪。せ。  
る。勢。小。を。乱。軍。中。小。殺。死。し。り。り。その。岩。と。は。焼。起。り。と。の。間。も。あ。り。  
せ。ば。八。方。より。火。と。燿。も。り。烈。火。爆。くと。天。と。僅。か。し。山。原。も。岩。と。も。焔。  
爛。ま。て。怖。し。あ。ん。ど。の。今。ふ。進。敵。と。い。ふ。く。燒。く。立。五。下。の。岩。の。  
既。落。り。ま。ら。こ。の。符。と。は。陣。へ。注。伸。せ。る。と。驅。馬。り。て。桶。使。間。へ。討。

豊臣記 勿編 卷之十

四



一、義元船居大小狭び。一声多く響く。とらち突圍と目する。お  
 違せし。織田武軍の戦相は、氣のあき事少せあり。然るに今を  
 信長が軍の風説を、龍虎の像く謂徇し。童児程蔵月  
 等うる。是をりて試る。响の東國武士の一人。と方武者の十人。小  
 比ぶと。すも。いり。我陣尖の利をりて。尾列を斬る。果せん  
 俸。今又一日を過す。と。呼樂し。やと。氣官。打突ひて。草場小  
 舟。一。飲。酌。んと。益。把。揚。不。遠。丹。下。の。落。城。を。信。伸。あ。ら。ん。又。と  
 安。直。小。清。例。推。投。し。斟。よ。酌。よ。と。勇。む。の。何。の。防。禦。の。備。も  
 なく。安。雨。と。と。存。ま。る。然。や。と。丹。下。の。若。少。此。柴。田。権。左。衛。尉。家  
 前。小。連。る。み。市。の。若。倉。く。臨。る。何。と。信。伸。あ。ら。ん。と。所。傳。こ。と  
 我。身。の。上。小。及。び。ぬ。時。を。移。さ。ん。敵。の。大。軍。進。来。ん。の。必。要。あり。

とも長途の疲あり。増々今如う戦ひつけ。勇氣も左進列や  
 うるまじ。自軍の陣小勢ありとも。新隊あり勇猛あり。這若  
 小く五日七日。ち城入んと容易し。されども此地小安雨と敵の来  
 ると。信人も地し。いざや打棄是場。上は場と見え。敵ともち交  
 平場の軍小良將を。擡殿して。破懸さん。若。擔。た。ま。久。間。原。と  
 丹下の兩城。謀合を。若の因少。信長の旗馬。標と見え。大將  
 こ。小。強。ら。せ。後。を。余。而。目。小。こ。ま。と。ん。せ。う。け。柴。田。坂。井。名。古。屋  
 の諸將。と町を。若と。若。是。場。を。求。て。隊。伍。と。つ。ま。ま。  
 佐久間。森。池。田。依。左。の。凸。丘。小。隊。伍。を。搦。ふ。然。し。と。遠。地。の。支。陣  
 より。織。田。大。隅。守。信。廣。方。へ。使。者。を。り。つ。て。去。遣。け。ん。敵。此  
 方の兩陣。小。及。見。り。し。り。神。自。勢。を。今。門。勢。の。後。脊。を。絶。裁



戦もよよ。その時われも出勢をし。一方一合小探立人と軍納り  
て。進敵とまら。左様小合川勢。富永之浦。比奈原。尾島山  
六隊の大將。と。余孫の軍勢をひらふ。合せ。魚鱗小そあ。ん。  
成。声。進。び。り。が。際。幾。く。あ。る。ま。ら。丹。下。の。城。を。見。揚。ま。ら。  
爪の花。舞。う。る。籠。籠。了。了。端。々。々。相。と。ん。て。又。可。信。長  
の本陣。に。這。装。と。こ。思。得。ま。ら。此。堡。を。一。時。小。攻。陥。さ。ら。大。將。を。伐  
捕。こ。と。掌。理。を。括。が。如。く。う。り。尾。列。の。落。去。り。方。僅。遠。响。進。め。人。々  
励。ま。ま。よ。よ。一。吐。小。減。と。り。り。蒐。獲。と。進。来。り。此。柴。田。佐。久。回。の  
隊。伍。を。隊。伍。の。勢。僅。二。子。小。過。ぎ。ま。合。せ。て。自。軍。を。視。ま。ら。  
海水。を。り。く。粟。粒。を。漂。し。磐。石。を。り。く。蟻。虱。を。捉。ぐ。小。異。あ。ら。ま。ら。  
先。一。探。小。の。も。殺。と。と。二。万。余。人。が。一。合。小。押。逼。人。と。す。と。の。一。合。進。り

道。窄。ま。ら。一。合。小。進。む。釋。か。じ。さ。ら。部。伍。一。戦。え。ん。と。二。万  
余。孫。と。六。合。小。一。合。も。一。番。の。庵。原。右。近。を。大。忠。春。五。子。余  
騎。少。く。柴。田。小。蒐。り。二。番。小。富。永。伯。耆。も。六。子。余。孫。と。佐。久  
間。小。的。の。第。二。番。の。朝。比。奈。小。之。所。泰。秀。四。番。の。浦。左。馬。助  
義。次。六。番。の。富。山。備。中。守。勝。吉。諸。六。番。の。飯。尾。豊。前。守。と  
合。せ。り。清。洲。方。の。大。將。達。今。川。勢。の。形。ま。ら。小。部。伍。を。合。せ。て。進  
り。と。観。り。り。柴。田。勝。家。孫。馬。を。強。中。一。戦。鞆。々。々。突。立。騰。り。  
自。兵。小。指。揮。し。て。呼。く。る。中。う。敵。の。大。勢。を。憑。じ。て。自。軍。の。小。勢  
を。見。侮。り。進。足。取。次。は。隊。伍。を。紊。れ。今。這。場。へ。競。ひ。蒐。り。る。  
一。勝。く。の。功。を。争。ひ。戦。柄。を。望。む。と。知。る。ま。ら。自。軍。の。二。子。小。是。す。  
少。の。も。彼。敵。を。敗。らん。と。さ。の。難。く。も。ま。ら。ま。ら。と。更。代。の。勢

豊後言利録卷之十一



明きどりて。芳れ。後のふせん。さうへ兩軍をひつつかうし。  
四隊に部て致る。但系武者小目あけを首攻と探  
んで毆捕つ。大将をさふお捕あ。残る自然と敗走する  
そ意はよやと仔細し。勝家六百の自軍を。若後小  
たぐ推し。まづ鳥銃をうち致あさる。潮を逐る長  
槍の鋒尖を連て突蕘る。まじに疼むと看んるところを  
勝家直地小進出。城ともえつる虎口を。左右小掻分け怒声  
發し。鐵田家小その名を棄せし。柴田權六郎勝家あり。  
今川家の大将小見參す。今と自号け。鬚鬚と。相形  
狹皮の獅子王。又小條で忽神通と。傳るる像し。今川方の軍  
們。領く尾列小狀將有と。所知れば。備るる。鬼柴田ありあ

つ。身當る。大將を意もなきに。近合さへ。思せんも。けし。し。  
只大勢ふて。推捕圍。後をくめ。付。面を。と。通。不。碍。精。七。掃。ふ  
の。近。ま。の。の。あ。る。が。れ。の。菴。原。右。近。大。ひ。し。瞋。り。武。士。甲。斐。入。見。  
自軍のありさる。從令柴田が鬼あも。あ。れ。八。臂。も。あ。ら。ぬ。人。間。ぞ  
や。上。方。武。士。の。墮。弱。漢。の。や。ど。の。功。業。う。あ。ん。東。國。武。士。の。濶。々  
ふ。ん。せん。厭。み。退。ぞ。と。喚。たり。つ。馬。と。正。魁。と。進。出。し。槍。を。擡。て  
突。蕘。る。柴。田。も。こ。ま。を。廢。系。と。見。徳。て。荒。尔。と。う。ち。笑。ひ。今。下。く  
鏝。と。抱。志。く。れ。ま。う。く。と。う。と。擲。合。ら。り。廢。系。頼。り。ふ。る。も。と。焦。  
燥。只。一。突。と。猛。起。進。し。槍。を。擡。六。勝。家。の。ま。さ。と。傳。り。槍。執。る。  
猶。た。り。の。と。韁。控。操。馬。を。廻。め。く。ひ。れ。返。を。菴。原。系。も。す。く。後  
ふ。系。自。軍。を。離。して。只。一。騎。い。づ。追。り。や。追。來。る。時。分。は。し。と





丹下城外の  
 合戦 柴田  
 池田が勇猛  
 烈しく今川勢  
 を敗殺せしむ



此木田持六二尺二寸の太刀銃うじ。身と翻をよと見入るる。右  
 近に夫ら持たる槍の真の中央より砍折て吐の向ふに右の太刀丁と  
 毘ハ槍の大袖をもちて左の腕をくち切る。手交不當の  
 勝家。砍らしてちやうと堪へた馬より撞と押し墮つと槍が  
 招き士。柴田源左衛門尉走信。捉く壓つて首を刎。信がこれを見  
 見ぬはあ。九百余騎をまん丸ふとて。みみと听下敵兵を二  
 びくこ不退起る。信原の大将毘毘西小丸も手交し敵一交も  
 せで敗まて。柴田勝家自らとてと久捷喊あけて退るる。

池田勝二郎 振勇 砍富永 属前田再戦

今川方小ひえ。二番の大富永伯耆守氏能兼守佐目若小

信原のうり。これとてつらうりも。漢とていして突出さし。出る者  
 され小継。此木田毘毘毘。魔原が吊軍せよとて。五十有全騎あめりて  
 魁まゝ。尾別方より池田猪三守信輝。六百全騎の若士と率ひ。柴  
 田小交代て富永。水が五子の勢を出逢ふ。抑池田が軍配。百人の  
 駄車を正魁ふとて。まづ各銃を打出させ。二百全騎の若武者が  
 りひくふ百個の若卒。槍羅口の長柄のり。を羽翼に備て隙間を馳  
 起つれ。富永氏能兼。これ小信原が毘毘。軍小揃過るるゆえ。本  
 て敵小誰を惜とて命を換へる。我の隊伍を惣して進んとみ  
 子の若士を制滅す。詰くと馬を強せ。池田が隊相を窺信。勝を  
 郎にこれとて。噫異にじき小心る。使進ぶと指揮かして。隊幾  
 歩ふるよと見え。若仕構する。信原百挺つる。重うちふらして。



伯耆守が魁隊の勇士を募集倒小撃侍する。これが為小遣はす懼怖  
 なく入つて来る。池田の勇士二百余人、瀨田まで突進する。間  
 十重百人の兵車。間様の槍擲矢掃つて瀨田まで。こまに芳らむ  
 難刀列伍、勃然として難攻。斯強を以て洗矢。操着きて富永  
 勢益々く崩きて右側左側へ。急小退んとす。こまも左右の源田小  
 往束の道管けま、膝撓ぐ。弓方小將、馬を小振ひ、槍相打  
 て退んとする。はるる夜と池田勢、長柄の洗矢、烈然として突立  
 つたきて追捲まる。今川勢の兵兵之。岸藁て敗走す。富永是を  
 つるも、呼ん若し、死自方の拳動。形量の敵小斬る。是後を  
 見んとする。やある。推提綱て一人も剩さず。討取まやつと下知す。ま  
 ども、崩きてくる。難攻まむ。勿く隊伍を撃つ。殘は今朝より、みま

まを抜塞を、池田勢一、疲もあま。強烈奮池の池田勢、散散さま  
 て、些も保つてと御下首して逃惑ひ。踏まらぬ源田の睦と倒つ。掃  
 びら散乱を、富永一、勢踏止す。我子とある。こま、禰正と槍把整  
 して、返して。正魁小馬を、跳らせて。池田が魁隊の歩を、忽地  
 小四六人、掘伏して。まもあま。池田が兵車。今日と際と、こまの  
 膝を、色なく富永氷が。るの最後と推提卷、倚合せ、槍と盾を。  
 伯耆守の懸の如く。隙隙ある。戦ふ所と。池田の壮士、序相きた  
 出門を、銃提さげ近づけ。睨決めて火蓋を、放し。怒り、こま、打  
 ら、こま、氏懸と、こま、たま。馬より、撞と地を、こま、こま。  
 停守た束、走、傍へ首を、提る。こま、看るより、みま、金鎧。首、好、懸して、方  
 僅、一矢、半刀、速へも、せむ。是、是、地首して、途を、失ひ。深田、小、墮く



軍あるあまふ。獨きて赤く深きも背。今迄五千と所へりも退  
 結く毆ましく。忽ち五百小斬滅され。這く敵地を遁くを池田  
 の勇士五百余騎の勝岡峯にて退返す。昭海河系小おつる。船比  
 系。之浦首山。飯尾の守おの富永。藤原の二將をうけて大お警  
 き。これの自軍の大勢を憑て思慮あり軍をひし。影う入團一の點  
 と二眼より。這遭の四列一隊小推進せ。次第を守りて蕨る。今と都  
 合てぞ推進るを。佐久間右衛門尉坂井右右と。赤く左方。名古を  
 小部。一子余騎の軍を。陽小并て傍合せ。今川勢を捉捕ん。や  
 標よのんでぞ攻める。柴田池田の後陣を。佐久間右衛門尉。名古  
 屋坂井の四將のこのま。ひこせ。戦死をたれ。なれ。後一もも退る  
 せぞ。退ると遁ふ。和へ合。今川勢の二百余騎を人ともかりのて

蕨るうけけ。茲小鐵田大隅も信廣の。二子。この百の勢を。今川  
 勢の隊を。打んと推せ。目るより。飯尾首山。心懸て  
 進む。は。さ。敵る大軍あり。自軍の僅の小勢あり。ゆえ。  
 大隅も。改蕨ら。ぬ。方とも小。既合。ゆ。果ある。道と。飯尾  
 首山。一。余騎。隊。佐。首。後。二。方。小。領。ち。を。標。出。し。鐵田  
 信廣。も。信。廣。不。船。比。系。之。浦。の。一。百。余。騎。の。首。を。佐。久。間。小。向  
 り。と。信。廣。も。義。元。朝。臣。信。長。富。永。の。支。那。が。毆。ま。し。ゆ。せ  
 せ。と。と。大。小。怒。り。法。軍。小。指。揮。せ。魁。隊。の。名。軍。相。  
 等。兩。方。も。形。も。不。二。人。の。勇。士。と。毆。せ。り。子。敵。將。の。柴。田。池。田  
 と。速。不。討。捕。て。自。軍。の。二。將。小。佐。養。也。松。井。小。部。八。千。六。千。騎  
 小。て。朝。比。系。之。浦。が。援。を。せ。り。ま。つ。と。船。比。系。備。中。也。江。間。左。系。



前田大隅守の隊  
中ふかしの  
存び猛戦  
する圖





渥井 藏入石川新左衛門尉二百余騎、るる皆、祥吉の山の方より  
 鳴海の款を攻め、陣中より、軍容下知せ、傳へるも、各、深睡をせ  
 向ふ。然、小鐵田大陽も、信度へ、一千余騎の勢を率へ、新比奈備中  
 吉小強、向ひ、江列の加勢、一千六百、飯尾、着山、を堅防する。友  
 陣とも、小魁を率ひ、相と、死する機、會う。江、大陽も、陣中より、  
 佐々、隼人、千秋、四郎、二騎、お、並を、突出し、之、千余騎、あ、く  
 勅、つ、る。江、間、渥井、が、陣中、一面、も、推、る、を、斬、入、く。右、小、勘、左、  
 小、別、筋、骨、あ、ん、く、死、つ、る。と、波、瀾、の、や、く、身、を、瀧、ら、せ、秘、術、を、編、み、  
 て、揮、ま、ど、も、大、河、の、流、水、を、規、矩、り、く、掬、能、ま、や、款、の、新、左、衛、門、の  
 更、代、つ、く。中、小、單、で、攻、め、る、ま、ど、。遂、小、樞、を、依、る、千、秋、二、騎、一、  
 齊、小、段、を、つ、く。信、吉、を、一、若、田、大、千、代、發、車、を、率、ひ、ず、只、單、騎、

大、余、の、鎧、を、柄、長、小、犯、て、馬、の、平、頭、比、地、と、押、掩、新、比、奈、備、井、  
 江、河、石、川、が、一、百、有、餘、騎、動、搖、め、死、立、く。渦、卷、を、入、る、舊、地、を、突、  
 發、し、騎、士、を、軍、の、陣、ひ、く、右、地、小、勘、左、を、つ、つ、れ、轉、を、し、  
 陰、の、立、烟、る、烟、が、た、た、と、諸、將、逃、れ、十、五、を、う、く。突、死、し、あ、ら、な、  
 こ、ま、ど、つ、る、も、新、比、奈、備、中、吉、が、陣、中、より、遠、引、漢、名、の、伯、人、  
 小、く、宮、戸、孫、丸、右、友、右、と、自、号、も、若、田、を、的、に、射、け、て、擡、り、鬼、子、  
 大、代、登、り、ま、ど、右、領、小、勘、左、を、突、死、せ、し、と、せ、し、る、も、皆、  
 涌、り、て、股、小、中、ま、ど、三、州、沙、を、れ、が、異、と、も、せ、ど、左、小、強、を、把、持、  
 し、ち、り、を、扱、よ、り、つ、つ、り、が、穴、戸、が、壁、面、下、地、う、つ、ら、た、ま、つ、く、  
 了、得、の、彌、右、友、右、眼、醫、で、活、相、一、足、二、足、兵、兵、と、若、田、の、  
 づ、つ、と、を、扱、く。陰、も、あ、ら、な、編、小、ひ、れ、を、あ、せ、右、者、を、く、首、を、擡、



次より今川方の大軍の遠勢は小懼怖を種々たる中より  
 江間方をも成親と名をふるもていりさん小馬を逃らせ搦薙  
 る。若田等もたえらる。ここの合戦をあはせしは終る。若田  
 福休は大喝一討首捉り。これ等も員の始終として今日一日  
 の戦ひ小若田が手を捕り首の取十九級とぞ所する。他軍も自  
 軍も一月小目と懼かして威に合ぬ

今川義元戦損千桶峽間属後を敗北

減劫盡む。矢も盡れ。増劫成り海も止る。是れは皆か  
 十列百部のまじり身も。運河動し終る。是れは減小令と  
 適すけ道ありんや。皆も今川治部大捕義元は四万六千有餘  
 騎の大軍と二隊小領もて戦ひける。若田富永が魁隊の合

戦。織田のゆたひ強くと。後將二人戦換ひし。海道條の戦  
 小も。江間突を鋭くと。多くの勇士と若田小伐も。たにし  
 る。んてんてん。今川方の大軍も。新案の命を交代し  
 織田の小勢と接する。火水とあつて戦ふ。さう家持の桶  
 疎向あり義元朝臣の本陣の陣の境隈のそとに。は甲斐  
 もあつて魁隊も。登永。富永。完永。江間。その外多くの勇士  
 少軍戦換せし事と。後進せし。義元朝臣大下智。日比も  
 能ぬ自軍の法好い。ある軍と。つる。さあで。野中。徳や。らる。ごと。

面く。急げ。弛向。功。柄。起。し。尾。張。武。者。栗。田。池。田。を。信。じ。

若田。と。つ。り。小。勇。士。輩。と。一。個。も。あ。ま。さ。が。毆。捉。ま。る。使。う。ら。茶。

賢。い。と。勅。さ。し。も。旗。下。の。勇。將。等。も。と。お。さ。や。ど。既。大。好。の。馬

豊田訓林編卷之十





豊田請祿卷之十

十四



まらし一千余強少の過さうけり。其上遠地へ峻岨小して山の峻同  
 小陣取らば地形坦ちして山脊の味方の所知あり。是ら  
 軍勢散々小隊伍を連のうしうぶ。公着あさざるを慮いなり。こ  
 ろも小心小も及がらず。草場小部を乞糧布らせ。酒系を以て  
 たる。更へ日向澤井が陣中より織田の勇士依り集人秋  
 四郎が首を饒々大羽の實捨よ入まし。公義元新居の  
 久せをせし。さもあさづけ事小せん。自軍の諸勇士よんど戦功  
 と備らまはる。義元後束の個性の徳る時節のたえあるゆゑ  
 強さうてあさづけり。者上惣上方儀小信長の敵をも饒々集  
 登し尾羽を平均せん様へ。今明日をこまきうげ。呼樂やと  
 大口軍は事も微々小うち笑ひあそぶと過さんと風加

門とゆる。危後小酌を把らせ。他ことあり。拖剛と置と傾  
 ころそ。謙慮もまきまやどに信長は。路背小あうて。海乃  
 方小東。さる身院のま岡の志。人馬の叫びと余下り。所は  
 情々地小打せ。閑道より。今川義元のか陣と。當的てを  
 進らまはる小。初々。亦下。乘り。寄。小。今川の。本陣小。引  
 能。小。別。小。は。を。勢。小。て。積。中。引。の。態。あ。る。こ。と。を。隠。ま。ま。も。仔  
 細小沈黙。これ必勝の响なり。と他志をこを把て通。信  
 長の叱せ。山凹小池度。の。と。が。い。く。若。あ。る。や。う。使。察。ら。せ  
 給ふ。實小万全の時節をあると。初め。矢。あ。る。を。こ。し。う。べ  
 待小待。る。响。あ。る。ぞ。の。お。よ。及。ぶ。と。大。將。信。長。報。院。一。奇。こ  
 馬とせえ。強出のふと馬前の法士。程免が。て。ま。若。と。し。初。め

豊臣評話新編卷之卅

卅七



大切の御身せりて。正魁とて。をまふ。縁。殆。死。事。不。れ。よく  
 敵の。言。ふ。と。決。決。然。と。進。ま。せ。し。も。遅。れ。こ。し。の。能。ま。し。と  
 遠。く。止。ま。ま。い。る。と。任。長。方。右。小。甲。首。う。ち。振。各。隊。が。あ。ら  
 遠。く。と。も。敵。を。今。朝。より。軍。に。折。提。倦。疲。ま。さ。さ。る。名。軍。多。し  
 其。上。大。將。義。元。ハ。後。軍。小。心。強。し。備。境。も。況。事。あ。ら。休。身。を  
 せ。と。必。定。は。関。こ。き。必。勝。の。响。こ。せ。あ。る。れ。ま。と。自。軍。を  
 今。朝。より。輸。戦。の。ま。な。し。軍。を。心。か。さ。し。自。他。も。小  
 源。と。進。ま。せ。ら。ん。と。の。慮。も。よ。ら。む。新。ま。で。敵。は。由。羽。さ。せ。不。意  
 小。推。参。擧。起。ま。し。心。定。勝。利。と。信。じ。た。あ。ら。寡。せ。り。と。流。と。段  
 と。い。ふ。奇。術。を。と。と。ぞ。人。々。急。事。心。は。る。敵。落。思。ふ。と。誠。子。天  
 の。與。り。時。あ。ら。し。と。い。ふ。這。遭。の。合。戦。あ。ら。長。味。捕。と。け。と。と。さ。う。と。

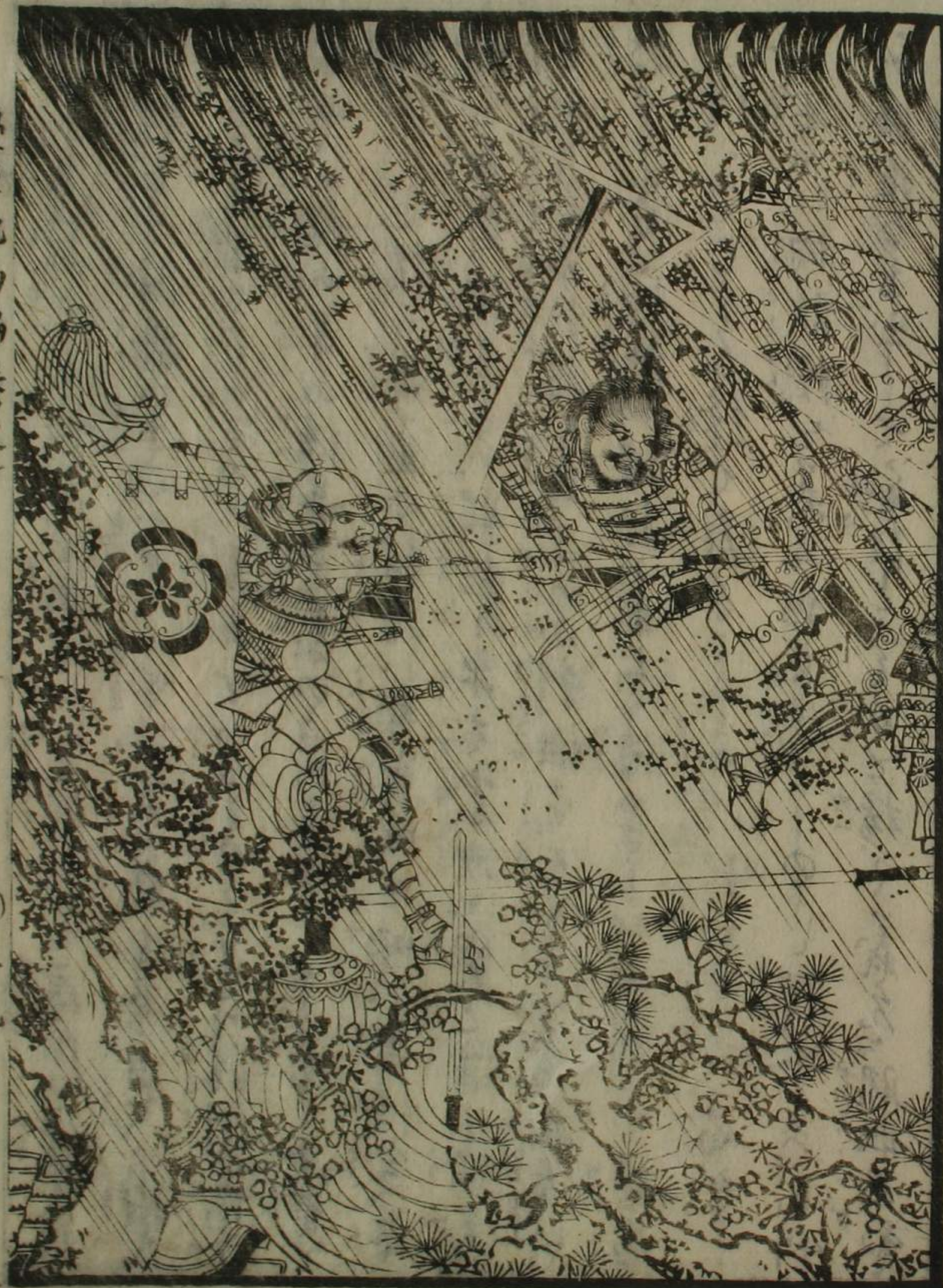
只。管。大。將。を。代。こ。と。せ。一。小。せ。も。賞。と。指。揮。あ。ら。事。を  
 例。の。大。喜。虚。隙。あ。ら。せ。と。命。ぜ。る。法。士。と。か。これ。と。兼。所。了  
 いろ。さ。ぬ。初。の。响。と。こ。そ。君。も。信。あ。も。信。り。力。之。今。更。闇。夜。も。曉。彌  
 中。ろ。不。思。つ。く。心。冷。く。あ。い。と。獲。く。然。と。者。躍。た。る。活。る。不。動。の  
 血。不。あ。る。を。其。外。を。来。不。た。ら。織。田。家。の。勇。士。中。川。金。右。衛。門。尉。七。利  
 河。内。守。同。新。助。佐。久。間。孫。兵。衛。平。不。子。小。將。首。臨。控。大。將。は  
 沖。前。へ。馳。来。る。織。田。家。を。沖。見。あ。ら。軍。首。よ。り。せ。い。と。し。と。い。ふ  
 今。川。義。元。が。本。陣。あ。ら。背。田。の。山。へ。馳。遠。く。人。を。集。ま。ん。ふ。倉。山  
 際。ま。で。旗。を。た。た。き。響。け。結。び。唱。を。法。め。て。情。進。る。べ。し。先。を。進。め。と  
 沖。下。知。し。軍。勢。倍。く。況。氣。を。烈。し。極。威。を。發。し。て。進。む。時。境  
 不。思。後。之。織。田。家。の。開。運。さ。る。時。并。到。来。の。奇。瑞。と。見。入。勢。田。の



宮の方小中より黒雲威以不懸く起し。極雨多分り小降  
 うり。暴風沙石を吹飛し。万籟をさくあるまに海面雲  
 と清くわわ。園味却て怒激しく。矢も碎くなり。小  
 出。山は雲もいり。向く。後さへあを西南より。松子の雲  
 電裏多り。方僅や世界も烈々あんと怪しむ。不どの鳴動小  
 咫尺の路先ども見え。恐らざる。進る自軍の士さく。款陣  
 とくあること。覚えぬ。たうりの有極あり。後さみど。怪  
 長の帷幕の外まで進ると。知らんや。好雨よこそと。休む。居る。法  
 中内へ。後田信長の旗か。尻桶使向あり。し。浪の山不登る。や  
 奇しく。さ。一同此の紋印。くるる。る。旗を。懸と。共。親と。押  
 と。近も。か。ま。し。格。揮。の。し。こ。より。後。田。造。酒。壺。指。於。小。ま。ま。

林藤八毛利新助。森とた。出。申。條。小。布。遠。山。志。常。毛。利  
 河内也。深田出羽。ち。あ。ん。どの。雄。士。正。魁。進。ん。で。近。あ。る。が。  
 本。林。と。た。あ。つ。ち。を。や。う。敵。と。大。勢。あ。り。り。ま。は。新。起。て。苗。起。り  
 あ。べ。を。隙。に。隊。何。と。と。を。あ。わ。さん。御。隠。本。を。あ。が。無。う。さん。  
 馬。と。を。強。投。湯。粉。と。を。あ。と。り。の。糸。は。長。実。最。と。強。把。整。し。て  
 る。と。小。一。揺。ゆ。り。と。い。さ。け。の。予。と。敵。ま。よ。は。士。輩。と。い。身。一。高。小  
 進。ま。せ。あ。糸。雨。風。ま。ま。と。く。暴。し。く。と。黒。雲。四。面。を。海。あ。を。ま  
 ま。白。晝。あ。も。と。も。黒。白。も。明。く。と。喚。叫。で。馬。を。馳。投。四。角。八。面。小  
 新。起。糊。伏。血。を。湛。け。そ。く。強。巡。る。今。川。勢。の。急。と。奈。葉。ま。あ。こ。と  
 懐。起。録。だ。此。の。謀。叛。人。の。有。る。事。決。目。は。口。津。の。あ。り。ぬ。る。あ。や。と  
 遍。互。不。心。と。顔。合。極。を。合。や。推。合。中。同。士。敵。を。と。噪。動。を。





今川 義元  
 朝臣  
 智多 郡  
 桶狭 間  
 戦死  
 の 図





時小今川義元と龍虎と画する金箔の虎の原風と續らし  
 毛織布せ油搥の卜小宴せし一木下藤吉舟走入る樹も  
 どれ石も砕るたるの大喜声と震えそく是は清洲の城を  
 織田上総兵平の信長見糸のこめまわりこり。會く河首と  
 賜ふ一と謂も果てぬ小林者八舟與世中條小市信定之原  
 風とた右搥をまが。龍助小平右宗次が突と進之信義  
 元龍吉の右は龍と。あさく不利徹と。ままども最期最期  
 持るるち方と把整し。龍助小平右宗次と。血焔と。殺馬  
 と刻らる。こまふ續てた手より。毛利龍助秀詮一喝をく  
 自号うけ。棚放鎗と義元龍吉。統さしのをし。揮止ま。毛利  
 龍助鎗あま出して。龍助と。毛刀と搥く。義元が。腹肚男殺

利徹。遂小但し。龍助を。義元龍吉む。孫人の。利了。小  
 秀詮が。たの。指と奮む。うらふ。小。喘。著。々。ま。ま。も。龍助。こ。ま。ま。異  
 ともせむ。終小首と伐落し。右刀の。又。尖。小。母。男。と。是。山。崎。為  
 して起揚る。尾別如多郡大原村清涼山曹添寺小今川義元龍吉の位牌  
 公大居士神儀とあり。牌脊の。永。祿。之。年。庚。申。五。月。十。九。日。該。別。府。中。之。城。之  
 今川治部大浦保義元と。尾別清洲之城を織田上総兵平信長合戦義元不利  
 終於捕獲同戦死終年四十之歳也。當山等二組立若引導。龍助。秀。詮。於。龍。助。龍。助  
 比。一。輩。と。あり。義。元。龍。吉。の。塚。も。當。寺。の。西。八。町。石。丸。と。い。ふ。所。小。今。川。龍。助。龍。助  
 む。一。義。元。朝。臣。行。年。四。十。有。三。之。歳。清。和。源。氏。の。名。家。と。して。  
 東海道小並ひあり。武勇尋常あり。さし。運。を。ぬ。ま。い。功。を  
 うり。坂の塵土小消果るぞ。喜。ま。り。ける。詞。も。な。り。毛利龍助秀  
 詮の。義。元。の。御。首。搥。搥。て。信。長。の。御。前。小。祇。儀。か。し。龍。助。こ。ま  
 敵の大將。義元の首級と伐捕て。と。を。分。捕。し。こ。り。今。川。家。の



重宝山蛇の名劍此カノ今川氏一具小号一と實檢小俱一  
 うべ信長喜悅久なり。千顆万顆の玉よりも得えたるもの  
 這敵あり。それと容易く伐取こて。最上と七二の敵ひかきと  
 義元の首小向をむむ。板好の波慥敵を了得名る良好  
 ありしも。新果給ふ痛ましさよと。息あままび花ざりしうら  
 傍迎の公輩も。不覚小徑の袖を濡しぬ。木下秀吉進出。我  
 君の千辛万苦した多ひも。這首むらつを泣てんの思はらう  
 起まつるあら。諸軍士の粉骨も。この首ひらの故そらし。  
 然らばもく這首を他を自公小んせむふべ。一厥もまい自軍  
 小勇を信し。信をハカを失ふて。自然小崩きひつと効め  
 まおらせたる小ら。毛利新助も。名刀の尖小貫まりて。

大言声を發しつ。今川治部大輔義元船居と。毛利新助お取ら  
 たり。是見今やとこそ呼らるこれ。傍小ある鐵田の人と合声く  
 小大將くの如く討まりし。駿遠冬の今川勢。別々に催せら  
 馮心して。合戦を奮まりやあら。名もく曹を脱隙糸也  
 て命を保ち。故に小還るて百全なりと呼らり。喚らるる意さらし  
 朝比奈備中守をとめこと。丹下信若を攻破らんと  
 捕圍むる今川勢。駿を發ぐ敵らも。本陣のこを晒まいし  
 小も大將の首を見入りし。滝の事は怪し。小思意さらしこ  
 ぐ。途も知らずを教れるて。迎惑ひ。敵を盡して伐まりし。又  
 名刀具を棄てり。信も揚て。美一とし。鐵田勢にた  
 やど小延ららし。軍勢を退收める中。小然く鐵田の勇力士。





桶狭山義元  
 敗北する諸軍  
 圖

豊田高平公傳卷之十

十一



下方九折た集つといふ士あり。今川家の同明林阿弥を生捕て大將の陣一連を奪ふ。信長も喜ひて首員を賜ふ。切名より遠小勝も功捕ふことと九折た集つて賞しむ。今日伐取る首ももど。彼林阿弥小見せらる。小濃と去ふことと親領も。假名實名の知るもの。六十余人ありらる。その余の扱を扱ふ。二ふ五百餘級そありらる。最目覚しに事ありらる。

信長實檢敵賞後若田附缺籍赦免

百乘の園室一燈と得て。明小十丈の瞑慧寸忠と目々結む。亦も這遭の合戦。今川の勢。四百六十。余餘ある。鐵田勢僅六十餘。尋常小闘。務小せらる。と由是さる。つれ。唯臺人の秀吉。方寸小く。大敵を以時小敗果せ。緯若代

後世よりの。いまま。お終を。知らきたる。さる。任小信長。清例一凱陣ま。い。て。借ま。の。勳功。と。感賞。あり。て。信將。の。の。く。流。小。退。出。あ。け。る。は。本。下。藤。吉。舟。秀。吉。二。人。の。決。争。小。多。く。紅。首。と。相。齊。せ。つ。と。出。實。檢。小。入。ま。事。て。ま。つ。る。織。田。敏。也。と。見。ま。つ。首。小。の。く。牌。と。付。ら。る。の。お。と。や。や。一。つ。と。傳。せ。た。多。く。今。川。の。信。家。江。向。た。系。免。が。首。と。あり。下。の。便。若。田。系。園。王。の。自。饒。小。段。と。題。と。る。信。長。と。と。親。ま。ふ。て。嚙。憐。あり。遠。首。の。園。あ。る。勇。士。の。江。向。た。系。と。討。と。る。彼。若。田。の。平。が。缺。籍。と。免。さ。る。し。そ。ま。と。悔。を。戦。死。せ。し。う。と。不。便。小。思。と。尋。常。色。あ。ら。る。是。眼。中。小。泪。と。濡。し。潜。泣。と。して。酸。鼻。と。あ。ら。る。下。秀。吉。又。一。個。の。首。と。出。て。實。檢。せ。し。む。こ。ま。



少い遠別演名の任人実戸孫五郎有原が首。若田、若末、若来のと  
 一、おまを討と墨くらりと記し。信長ゆへに小思さるる本  
 さへ長人あさるる身あり。忠義を忘るる死をば死期も我を  
 思ふて形もぞ小健筆の播せしものなり。と宣ふるを所ぬ由  
 小く、孫吉郎亦一級の首を打出し。此首牌は彼が撃つるやと  
 信長もぞ看たまふ。今川の冨家、飯尾豊前守の部を、松山  
 彰吉が、越前田某も首を伐と筆記せり。織田殿ゆへに  
 賞賞せし。儲もく思ひ傳ふ。活る播せしはを惜むる  
 死させし事よ。中、信長は信長の咽ふつらむせむる小又首二級  
 呈出せし。撃つるもい形らぬ。大千代、酸も一級を今川の冨家  
 園口飛人氏能が首。今をとの功牌は、赤間者や首とあり。

信長降りの討し。小是も若田が討たる小や。と訊ねたまへ。若吉郎  
 いる是針小いいらすと。従来實檢をぬせし。大の首は、大千代が  
 陰下の功名小してま。此この功首は、古刀打の切旁小してはる。  
 一級づゝの暉貴也。こ、一、下、小、實、格、せし。大、千、代、が、牌  
 の、付、たる、首、を、出、せ、し。こ、と、九、十、員、十、九、級、信、長、今、の、降、り、の、事、小、思、さ  
 願、する、も、を、罰、果、目、の、感、嘆、膽、小、徹、し。執、湯、の、妙、は、洞、を、と、つ、陣、下、  
 要、時、の、顔、も、お、つ、ら、し。稍、あ、る、を、掃、清、し、た、ら、ひ。形、量、の、敵、を、一、個、し、て、  
 討、果、する、播、の、恰、も、鬼神、の、不、為、あり。豊、大、千、代、が、切、と、思、つ、て、海、邊、  
 形、船、の、思、え、を、や、と、鬼、を、狂、言、く、信、長、も、稍、清、は、小、沈、ま、を、お、つ、ら、し。若、吉、  
 辭、も、悲、歎、小、思、さ、し。徳、傳、ふ、を、落、涙、あり。命、の、如、く、大、千、代、の、功、  
 免、れ、と、は、得、ず、も、這、つ、び、の、合、戦、の、君、の、沖、大、事、ぞ、と、お、つ、ら、し。

豊臣評林巻之十

七十三





豊臣氏切腹の事

十五



豊臣氏切腹の事

十六



一騎ありとも清敵と多く振舞ひて戦死し不便の者汝亡骸やと  
 御覽もあらざる石の沙加増よりも嬉しとて管津九根の戦  
 場より大隅守殿の清隊小加するを命惜まて戦ひしが造化よくも  
 ろの都て切巻の陰下向古刀のそ小けて追撃したる首の多く増く  
 各功名と争ふ場小く清缺籍の身の大千代小維が愉くむとの  
 首とも賜ふる不謂神作産まや愈渠一個の働ありと首をわらむ小  
 上総公有係の帯田利昌が一子ありと勤當最つる身ありともこの  
 大事の合戦と闘てを修故地小向ひ命を奪て初まて小捲るる  
 ちを健くするも類と比する小ゆけりる。嗚呼感志と一惜む  
 産しと日東のそ管又似るなりと。声を殺ちて泣きふ列座の雷  
 士も借小不覺涙を流して最驍手は捷軍の巻せうと先肩

と流る。流るる列のた勇まき進もいつら哀悲小透すまて。宛々悲と積  
 まるる。積あるそ孫吉原候長小向ひまわらせ。現小万乗の満易  
 けまを。積一將の權が。若田が如く英雄を。世小愛ら。小唯を。や  
 是方於君は懐心股法忠居。そと稱を。初進功と達するう。今  
 清隊もも雲を。人小助勳氣は報るべ小や。と中せ。信長を。必  
 て。涙を。拵を。のひ。如。小も。者。言。所。が。中。を。や。是。近。缺。籍。た。じ。も。  
 拒末が。御。氣。を。戒。め。ん。と。素。より。教。訓。の。お。ろ。ま。い。の。近。分。さ。と。重。ん。ま。て。  
 機。會。も。あ。ま。し。報。さん。り。は。禱。を。思。ひ。惱。る。小。そ。朝。を。清。く。え。我  
 死。せ。こ。そ。返。さ。る。も。不。便。な。も。精。神。も。此。出。ま。ら。ず。心。中。に。家。  
 智。せ。ま。憎。し。思。て。初。ま。り。勤。當。を。せ。し。事。あ。ら。ず。唯。身。武。士。小  
 か。さ。ん。の。の。冷。を。徹。り。て。為。し。意。を。知。ま。て。戦。死。せ。し。こと。の。意。不。便。さ。し。

建國言神終卷二十一

十一



夜も下り。宣へると。本下秀吉。傲まぬ。と。人ひ小次郎。さぞ。小次郎  
 けり。程も。まも。い。ら。う。と。生。牙。市。田。小。次。郎。と。東。山。の。城。を。守。り。し。て。忠。義。を。盡。す。  
 さ。や。さん。の。勲。を。報。免。る。ぬ。と。し。つ。所。希。百。出。し。た。ら。ん。若。し。い。れ。い。ら。ん。と。  
 や。と。云。下。せ。と。信。長。お。や。と。市。田。既。に。昨。日。の。軍。小。次。郎。死。せ。し。む。い。あ。ら。ん。と。  
 や。と。同。せ。し。む。と。孫。吉。郎。い。う。も。準。い。物。を。下。り。戦。死。の。覚。悟。を。小。次。郎。密。小  
 次。郎。の。懐。疑。を。と。殺。す。と。決。し。て。戦。死。を。止。ま。さ。せ。好。方。小。次。郎。死。せ。し。む。い。あ。ら。ん。と。  
 市。田。刀。折。沖。希。と。同。せ。傳。中。を。少。と。大。千。代。が。脱。喜。隠。り。ぬ。御。希。小  
 次。郎。平。伏。し。る。と。信。長。も。と。も。と。つ。し。雀。躍。を。計。小。次。郎。び。い。ま。い。又。も。と。  
 を。事。あ。て。る。つ。う。と。ち。お。も。此。の。戦。切。の。果。ち。あ。る。こ。と。何。ぞ。の。つ。て。當。り  
 ぬ。と。小。次。郎。盡。す。と。女。は。後。来。訣。籍。せ。し。も。全。く。心。を。取。ら。ず。と。裁。せ。し。ぬ。  
 市。田。が。小。次。郎。忠。義。を。竭。す。と。切。名。を。天。下。小。次。郎。傳。へ。し。ぬ。と。め。新。料。理

申せし。ま。さ。と。ぞ。し。情。を。さ。ま。り。と。悟。し。つ。ら。ん。小。次。郎。死。せ。し。む。い。あ。ら。ん。と。  
 働。せ。し。忠。義。の。心。ぞ。最。難。母。一。ま。ま。い。こ。と。運。命。運。命。を。運。命。と。後。に。小。再  
 命。せ。し。市。田。が。婿。一。さ。い。い。ら。ぬ。と。能。く。と。多。く。の。敵。徒。が。首。を。討。つ。と。  
 脱。し。さ。よ。古。今。小。次。郎。一。ま。ま。い。こ。と。運。命。運。命。を。運。命。と。後。に。小。再  
 命。せ。し。市。田。が。婿。一。さ。い。い。ら。ぬ。と。能。く。と。多。く。の。敵。徒。が。首。を。討。つ。と。  
 戦。小。次。郎。一。ま。ま。い。こ。と。運。命。運。命。を。運。命。と。後。に。小。再  
 命。せ。し。市。田。が。婿。一。さ。い。い。ら。ぬ。と。能。く。と。多。く。の。敵。徒。が。首。を。討。つ。と。  
 市。田。父。の。能。き。と。る。と。兵。濃。程。多。山。の。城。を。守。り。し。て。忠。義。を。盡。す。と。

繪本豊臣勲功記初編卷之拾 大終



讀解語林卷之十一

安政四年丁巳八月出版

編輯者東京 櫻澤堂山

畫工 同 一勇齋國芳

大阪書林

出版人

岡田茂兵衛

同

東區博勞町四丁目

同

松村九兵衛

東京書林

南區心齋橋筋一丁目

發賣人

山中兵衛

芝區三島町



